

令和4年度 第2回彦根城博物館協議会 会議録

日 時：令和5年3月

場 所：書面開催(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)

出席者：有坂道子委員、井伊裕子委員、石丸正運委員、一圓泰成委員、内田宏委員、田島達也委員、
磨谷絵美子委員、藤井讓治委員、伏木利行委員、宮崎隆旨委員、(50音順)

1 議題

(1) 令和4年度 彦根城博物館事業取組状況について

No.	委員からの質問・意見	回答
1	今年度の企画展「上田道三」は私の現職の大学の出身者ということもあり、非常に興味深く拝見しました。日展や院展などで活躍する一般的な画像イメージ「ではない生き方」は、普通の美術史の中で知る機会は少ないので、芸術を学ぶ学生に授業で紹介させてもらいました。私は担当学芸員さんから説明を聞きながら見ることができたのですが、個人的なエピソードが面白かったので、展示でもそういうところを押し出してもらおうとなお良かったと思います。	本展示は、地元の方々が身近に知っている上田道三を取り上げたわけですが、若い頃の活躍がほぼ知られていない生涯の全体像を示すことを目標としました。親族の方からの聞き取りや戸籍の取り寄せ等、全くの手探りの状態での準備に時間がかかり、エピソード的なことを盛り込む余裕がなかったのが実情です。今後、ご指摘のような形でより奥行きを感じられる展示を目指していきたいと思います。
2	これまでと同様に新型コロナウイルス感染症対策をとりながら、今年度も数々の事業を実施されたことは、文化財の調査研究、文化的価値の普及など博物館事業の本質を貫くもので、大変意義深いものだと感じています。「ほんものとの出会い」をテーマに展示・展覧会の企画、資料・文献の調査研究活動等、博物館としての役割を十分に果たしています。また、学校との連携、教育普及事業にも変わらず取組んでいることに感謝します。次年度も学校から直接見学することも多いかと思いますが、受け入れ体制の準備をお願いします。	感染症対策については、国や日本博物館協会の指針、市の方針に則り適切に進めてきました。幸いなことに博物館からの感染者を出すことなく、ここまで来ています。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが2類相当から5類に引き下げられますが、安心安全な運営を心がけつつ、多くのお客様にご来館いただけるように、事業を展開していきます。
3	コロナの状況も少しずつ改善する中で、来館者数が戻ってきていることは明るい話題です。市民の方の活動も一部再開されているようで、今後この流れが元のように活発となることを願っています。今年度も館蔵資料の研究に基づいた多様なテーマの展覧会企画を工夫されて	新型コロナウイルス感染症の感染拡大前に比べますと、70%ほどの来館者数ですが、回復基調にあります。感染状況に注意を払いつつ、安全安心な運営を心がけていきます。また、展覧会企画については、テーマに応じて、様々な人びとや組織との連携を工夫していきたいと思います。

	<p>いると思いました。展示と連動した現地見学会も面白い試みだと思います。テーマによっては、フィールド解説や実演のようなものも取り込むと活動の幅が広がるように思えました。</p>	
4	<p>本年度開催済みの展覧会で、特に興味をひかれた一催に絞りますと、企画展「彦根藩の足軽一歩兵たちの近世」があげられます。足軽展、雑兵展などと呼ばれるこの種の展覧会は、これまでも他府県の博物館で催されていますが、いずれも「雑兵物語」を基底に、数十領からなる諸藩の足軽具足コレクション（個人蔵）を組み合わせるといった内容でした。しかし、本展は彦根藩の史料も駆使して、単なる戦時の雑兵だけではなく、平時には藩政の様々な用務に携わっていたことにもスポットを当て、足軽の理解に新たな扉を開いた好企画であったと思います。</p>	<p>ご指摘のとおり、企画展「彦根藩の足軽一歩兵たちの近世」では、赤備えの一歩兵として注目されることの多い彦根藩の足軽たちの平時の役割や様子、また時代の変化に対応していく姿を中心に紹介しました。今後も、着実な歴史研究の成果に基づくとともに、焦点の当て方にも工夫を凝らした展示を行っていきたくと考えています。</p>
5	<p>彦根藩井伊家の刀剣企画展については、数多くの刀剣を館蔵品で展示出来るのは圧巻で、全国的に数少ないのではないかと思います。次の展示の時には、刀身の変遷だけでなく、刀装や鏢等を合わせ展示し、大刀剣展を企画すると、さらに多くの観覧者の興味を惹くのではと考える。</p>	<p>ここ数年で、刀装のみ、刀身のみでそれぞれ展覧会を開催し、好評を得てきました。ご指摘のように、井伊家伝来刀剣および刀装の全貌が分かる総合的な展示は多くの方の関心をひくものと思われます。その時期や方法等を検討したいと思います。</p>
6	<p>上田道三展の歴史風景等の記録画は、将来にわたって伝えることが必要であると考えますが、博物館事業としてではなくて、市の文化振興事業として、市に寄付された約200点の図録を作成して市民に周知してはどうか、市の取り組みに期待したい。</p>	<p>市に寄贈された上田道三の作品のほとんどは、地元を描いたものであることから、市民活動の中で利用されることもしばしばです。全体にどういったものがあるのかを公開することは地元の活動の活発化、また、地元の再認識等に有益と判断されますので、担当部署である文化財課にもその旨を伝え、当館も協力しながら、どういった形でいつ公開するか等を検討、実現していくよう促したいと考えます。</p>
7	<p>彦根藩の足軽展は彦根藩の足軽の特性や多様性について解説しており、併せて足軽組屋敷の現地見学会、シンポジウム等の一連の取り組み手法は良いと考える。</p>	<p>企画展「彦根藩の足軽一歩兵たちの近世」に併せて開催した関連イベントでは、彦根の足軽屋敷群の保存と活用に取り組まれている「足軽屋敷彦根辻番所の会」にご協力いただき、現在も地元に残る足軽屋敷についてまず知ってもらうこと、さらに他藩の足軽の様子との比較を通じてより深く彦根藩の足軽を知ってもらうことを目指しました。今後も、来</p>

		館者に彦根地域の文化財や歴史に親しんでもらえるよう、展示はもちろん、効果的な関連イベントを開催していきます。
--	--	--

(2) 令和5年度 彦根城博物館事業計画(案)について

No.	委員からの質問・意見	回答
1	収集・保管に関して、パソコンによる資料管理システムの整備を進めること、古文書・典籍のデジタル撮影を進め、閲覧体制の整備を図るとありますが、この作業が進むことで、より多くの研究者にも、博物館の資料を利用して研究してもらいやすくなると思います。苦労して守り伝えてきた史料であるからこそ、多くの人に研究利用してもらいたいと、先代・先々代・・・も願っていると思います。デジタル化がどんどん進むことを期待します。	井伊家伝来品をはじめ、広く一般の人々や研究者などが閲覧でき、利用しやすくなる環境を整えることが、研究を進展させるために必要です。そのために、収蔵古文書・典籍資料、美術工芸資料の電磁記録の作成と公開の実現に向け、館として積極的に取り組んでいきたいと思っています。
2	「大名と菓子」展を非常に楽しみにしています。いま大学で「テーマ演習 和菓子の文化史」という授業をしていて、見学したり、菓子を買ってきて食べたり、最終的にはオリジナル和菓子を作るという活動をしています。なにか連携の可能性がないか、と思っています。	企画していた関連事業は予算化が見送られましたが、本展のテーマはやはり、展示以外での色々な企画があつてこそより関心を持っていただけるものだと思います。連携の可能性がありましたらぜひ協議をお願いします。
3	次年度も引き続き、小学生を対象とした体験教室を計画されています。また、学校との連携も事業計画に挙げられており、学校教育活動に次年度もご協力をお願いします。文化観光拠点施設として文化観光推進への貢献がうたわれています。令和4年度の観覧者数は、前年度より大幅に増えている様子です。施設の改修が進められるとのことですが、ソフト・ハード両面で来館者の期待に応えていただけるようお願いいたします。	ソフト面では、令和4年度は見送ることとなった特別展を2年ぶりに開催するほか、ハード面ではリニューアル事業として、今後能舞台活用に向けた改修や、売店・ホール周りの改修に取り組むなどなど、来館者の期待に応えられるよう事業を展開していきます。
4	計画されている展覧会はそれぞれ観覧者の関心をつかむテーマ設定をされていると思います。井伊家資料を通じて彦根藩の歴史を多角的に追究し市民へ還元されればと思います。	美術工芸資料と古文書資料をともに数多く収蔵する当館の特徴を活かした、両資料を組み合わせた豊富な歴史像を提供していくとともに、多角的な視点から追求した歴史像を発信していきたいと思っています。
5	事業計画(案)のタイトルと概要文のみによりますが、令和5年度の展覧会も興味深い一催に絞	規模は大きくはありませんが、地元の彦根藩御用をつとめていた和菓子店のご協力を得て、充実

	<p>りますと、特別展「大名と菓子ー百菓繚乱ー」です。当初令和4年度に予定されていたものが延引されましたので、以前にも書面による協議会で記しましたが、平成20年に姫路城を囲んで兵庫県立歴史博物館、姫路市立美術館も参加して開催された「姫路菓子博2008」の盛況が想起されます。公立博物館の展覧会としてはユニークな着想で、本展はどのような切り口になるのか楽しみにしています。</p>	<p>した展覧会としたいと考えています。</p>
6	<p>令和6年度以降の展覧会について調査研究を進めておられると思うが、働き方改革の視点から展示基本計画の見直しを検討することが出来ないか。</p>	<p>現在は、年に1回の特別展、2回の企画展開催を基本に展示計画を立てています。特別展は、彦根の歴史・文化に根差したテーマを掘り下げ、館外資料を借用展示して多面的に日本の美術や歴史を紹介するものです。また、企画展は、館外資料も借用し、近江や彦根の地域の歴史・文化にスポットを当て紹介するものです。このように異なる視角の2つの展覧会を実施し、ともに彦根城博物館に期待されている性格の展示と考えています。現在、彦根市職場では働き方改革が推進されていますが、博物館として求められる展示業務と、働き方改革とのギャップをどう埋めるのかが、職場にとって大きな課題です。特別展と企画展は、調査研究の成果を広く公開するとともに、博物館の存在を市内外の人々にアピールし、来館してもらう重要な機会となるメイン事業ですので、現計画で準備を進めたいと考えておりますが、他業務の業務量などを勘案し、見直しも視野に入れ、計画について検討を加えたいと思います。</p>

(3) 彦根城博物館の設置及び管理に関する条例の改正について

No.	委員からの質問・意見	回答
1	<p>「電磁的記録」を追加する以上は、資料のデータベース公開を積極的に進めればと思います。美術工芸品はもちろんですが、文書がネットから参照できるようになると博物館の存在価値が高まると思います。</p>	<p>収蔵資料のデータベースと資料画像などの電磁記録の作成と公開は、当館としても行わなければならない事業だと考え、古文書資料のデジタル撮影を毎年行い、画像を蓄積し、館ホームページで代表的な作品の画像掲載を行っています。しかし、その必要性や重要性は感じながら、ネット上でのデータベースの公開や古文書資料の画像の公開はで</p>

		きていませんでした。今年の4月から施行される改正博物館法では、博物館の事業に「博物館資料に係る電磁記録を作成し、公開すること」が追加されました。電磁記録の作成・公開は、博物館が社会に資するために重要な事業です。博物化法改正の機会をとらえ、館として、博物館資料の電磁記録の作成と公開、および資料データベースの公開を目標設定し、資料画像の作成や、国の補助金や電磁記録の公開方式に関する情報収集、予算獲得に向けた市関係部局への事業の必要性の説明等を積極的に進めていきたいと思っています。
2	第1条「市民の」とありますが、市民に限定して良いのでしょうか？	本館は彦根市の税金を財源として運営している市立の館であることから、第一に市民を対象にすべきと考えました。ただし、実際の博物館活動は、市民に限らない多くの人びとの教育、学術、文化の発展にも寄与するものとなるように努めたいと考えています。
3	博物館法の改正により条例改正されるものであるが、時代の趨勢に伴い、博物館資料の電磁的記録の作成および公開ならびに学芸員の養成および研修は必要であり、業務として明確にするべきと考える。	従来、博物館では、収集保管・調査研究・展示・教育普及を博物館の主要な機能と認識してきました。これらに加え、博物館資料の電磁記録の作成・公開と、学芸員等博物館職員の養成・研修も、博物館に不可欠な機能として、業務の中で明確に位置づけていきたいと思っています。

2 その他

No.	委員からの質問・意見	回答
1	毎年地道に資料の保存修理が行われていますが、費用がかかることは想像できるものの、痛みの具合や劣化の早さ等から考えて、このペースで間に合っているものなのでしょうか。史料の修理前と修理後、修理したらこんな事がわかったという展示は、とてもよかったです。ただ、控えめな展示でしたので、もっと目立つ演出で訴えかけてもよいのかなと思いました。	彦根藩井伊家文書については、平成10年度より国庫補助を受け、継続して修理を行っているところであり、令和4年度現在において、修理を要する資料約3,000件のうち、約1,000件の修理を完了した段階です。ご指摘のとおり、修理のペースを上げることが望まれますが、資料の解体やクリーニング、資料一枚一枚の学芸員による確認など、多岐にわたる修理工程に要する時間と労力、および費用等を勘案すると、現在のペースを維持せざるをえないと認識しています。 また、修理史料の展示については、令和元年度から、前年度に修理した史料を展示するという方針で、そのときどきにより形を考えて展示の準備をしてきました。

		た。好評をいただいたことを糧に、より多くの方に見ていただけるような展示の仕方などの工夫を重ねて、修理史料の展示を続けていきたいと考えています。
2	近頃の光熱費の高騰で、収蔵庫内の環境を維持するのが大変等、彦根城博物館は大丈夫ですか？	ご指摘のとおり、電気代の高騰を受け、11月議会に光熱水費の増額補正をお願いし、認められました。博物館資料の適切な保存環境の維持のため必須の経費となりますので、今後も財政当局にしっかりと説明してまいります。
3	コロナにリニューアル工事と悪い条件がそろい、能・狂言が催されないまま何年も過ぎてしまうことが残念です。	能・狂言の開催を楽しみにしていただいている方には申し訳のない状況が続いています。文化的行事の開催は、条例にも規定された博物館の基幹事業ですので、開催に向けて努力してまいります。
4	観客による展示室内の写真撮影は、彦根城博物館ではどうでしたか？近年急速に撮影可能などが増えているので、もしまだなら検討してください。	フラッシュ・三脚の使用は禁止していますが、館蔵品であれば撮影をしてもかまいません。撮影禁止の場合等は、都度お知らせしています。
5	感染者対策も緩和され、入場者数が増えることが予想されますが、次年度においても入場者数等に左右されることなく、博物館事業を継続されますことを望んでいます。今後も、子供たちの教育活動に協力をお願いします。	お見込みのとおり、令和4年度の入館者数は令和2年度、3年度の入館者数を大きく上回ることができました。来館者を増やしていくことは重要ですが、彦根市の児童生徒の学習に対してこれまで通り連携・協力をしていきたいと考えています。
6	国のデジタル化政策に伴い、博物館資料の電磁的記録や公開が業務として位置づけられることにより、彦根城博物館の約9万件の多量の保存資料をデジタル化するには、通常の業務からみて、新たな体制整備が必要であると考えます。例えば、資料課を独立し、情報管理の専門の係を設置するなどの対応が必要と考える。	当館が収蔵する美術工芸資料と古文書資料の多量の電磁記録の作成と公開は、通常の業務のプラスアルファで対応する形では、実現は困難です。館の重要取り組みとして位置づけ、計画的に段階を踏んで進んでいきたいと思っております。このなかで、組織面も含めた対応も検討していきたいと思っております。
7	博物館展覧会期間中の観覧者は、毎年彦根城入山者の約20%程度であるが、この増加対策を検討する資料として、通過型観光で彦根での滞在期間が短いためか、あるいは家計負担の面からなどその原因を調査研究ができないか。	博物館でアンケートを行った場合、来てもらえた方を対象に実施は可能ですが、来てもらえなかった方を対象に実施することは難しいと考えます。文化財課や観光交流課とも相談し、アンケートの内容を検討して実施できればと考えます。
8	AIの急速な進展に伴い、あらゆる分野で、メタバースが活用されているが、博物館においても、これを活用して、仮想空間での体験や	先般の博物館法改正では博物館資料に係る電磁的記録の公開が謳われており、メタバースの活用はその選択肢の一つになりえる可能性があると考えます。

<p>触れ合いが出来る展示について調査研究する必要があると思うが、これに対する考え方がありますか。</p>	<p>しかしながら、公開の方法について具体的な例示は無く、国内において当館より大規模な博物館においても基準となるような先行事例は未だ確立されていないようにも思われます。また、厳しい財政状況の中、施設の大規模な改修事業を進めていることなどもあり、独自でシステムを開発導入することはできないものとも考えています。</p> <p>今後は、他館の先行事例を研究しながら、本館の持つ資料に合った効果的な公開方法を検討していきたいと考えています。</p>
---	---